

「雪田 (せつでん)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

冬の間雪が積もる各地の山では、雪どけが進んでいる。谷筋や、地形的に尾根の影で日当たりの悪い「永久影」の場所には、初夏まで雪が残る。そういう場所を「雪田 (せつでん)」呼ぶ。夏になってもとけず、一年中存在すれば「雪溪」と呼ばれる。更にそれが永続的に流れて、地形の一部となれば、「氷河」となる。「雪田」は、あまり一般的な名称とは言えず、春山を好む登山者の間で使われる用語のように思う。春山では、登山道を雪田がふさぎ、その上を歩くことがよくある。登山道が良く整備された山では、雪田は邪魔な存在となる。しかし、笹やハイマツに覆われて、杣道 (そまみち) のような縦走路しかないような山では、雪田があったほうがむしろ歩きやすい。上越国境 (群馬と新潟の県境) の山脈は未開な山が多く、残雪期が一番歩きやすいといえる。



北軽井沢の北側に「破風岳」という山が見える。中央部がへこんだカール (圏谷) のような地形なので、すぐにわかる。上越国境に位置するこの山は、今の時期は残雪が非常に美しい。私は春に登ったことがあるが、登山道の何か所かに雪田が残っていた。

「春の破風岳」標高 1999M
孺恋村姥ヶ原より

破風岳は山腹の駐車場から山頂まで 1 時間程度で登れるが、コースが変化に富み、山頂からの眺望も抜群である。文学で言えば、短編小説の傑作のような山だ。途中雪田が登山道を塞いでいるが、小規模なもので、これもまた楽しい。根拠地は万座温泉。是非登ってほしい山である。

「破風岳登山道の雪田」
笹の上を雪がふさぎ、それが下流にずれ落ちるので、モミの木をへしまげている。

